

令和5年12月12日
(2023年)

保護者の皆様

吹田市立片山小学校
校長 金崎 栄一

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、過日、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表する運びとなっております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科は国語、算数に限られたものです。測定されたものは学力の一部であり、あくまでも学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつも、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた指導法の工夫改善に努めてまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。(本内容は学校ホームページにも掲載し、広く公表しています。)

1 教科に関する調査の分析

【 国 語 】

(1) 概要

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域と「言語の特徴や使い方に関する事項について平均正答率は全国値と比較し、概ね上回っている。
- ・全国値と比べ、全体的に無解答率は低く問題に向き合う意欲は伺えるものの、記述形式の問題については、正答率が低く、無解答率も高かったことから、「書くことに」対する苦手意識が伺える。

(2) 各領域における成果◇と課題◆

話すこと・聞くこと

◇必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかを問う問題は比較的できている。

◆目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかの問題については正答率が低かった。

書くこと

◇図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題に対する正答率は全国値と概ね同じである。

◆無解答率は全国や大阪府の値と比較すると高く、書くことに対する苦手意識が伺える。

読むこと

- ◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるか、目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報をみつけることができるか、という問題に対する正答率は全国値を上回っている。
- ◇全体的に無解答率が低く、意欲的に問題に取り組んだ姿勢が見受けられる。
- ◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることについては、全国値と比べて正答率が低く課題が伺える。
- ◆情報と情報との関係を捉えて整理したり、自分の考えが伝わるように書き表したりするところに課題が見受けられる。

言語の特徴や使い方に関する事項

- ◇漢字を文の中で正しく書くことは概ねできている。
- ◆漢字によって定着度に差異が見受けられる。

(3) 国語における今後の改善点について

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」など様々な言語活動において、話や文章の種類（紹介、提案、解説、物語など）と、その特徴を意識して読むことができるよう系統的な指導を積み重ねていく必要がある。
- ・複数の本や資料に書かれていることを比較したり関連付けたりして考えることができるよう、共通点や相違点を意識した読みや、自分の考えを書く活動の充実を図っていく必要がある。また、文章を読んで理解したことと自分の知識や体験などを結びつけて考えたり書いたりしたことに対しては、価値づけしていくことも大切である。
- ・条件をふまえて自分の考えを書くことについては、一問一答の作文トレーニングや日記など、書く機会を充実させることで、書くことに対する苦手意識を払拭していく必要がある。
- ・漢字の学習については、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身につくように指導を積み重ねていく必要がある。

【 算 数 】

(1) 概要

- ・「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の3領域についての平均正答率は、全国値と比較して上回っているものがほとんどである。
- ・「図形」領域の平均正答率は、全国値とほぼ同じであった。
- ・無解答率は全国値と比較すると低い傾向が見られるものの、記述式で解答を求める問題については、全国値を上回る結果となり課題が伺える。

(2) 各領域における成果◇と課題◆

数と計算

- ◇（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることは、概ねできている。
- ◆（2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることは、全国値の平均正答率を上回るものの、筆算の意味が理解できるよう指導の工夫が必要である。

図形

- ◇正方形や台形の意味や性質については概ね理解できている。
- ◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかは正答率が低く、課題が見受けられる。

変化と関係

- ◇伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることは概ねできている。
- ◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することには課題が見受けられる。
- ◆百分率で表された割合の理解については、平均正答率は全国値を上回るものの、全体的な理解度は十分とは言い難い。

データの活用

- ◇示された表から必要な数を読み取ることについては概ねできている。
- ◆示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することは、全国値と比べて平均正答率が低く課題が見受けられる。

(3) 算数における今後の改善点について

- 変化と関係では、関数の考えを使って問題を解決していく力を培うために、調べようとする数量と関係のある数量を見いだすことや、変化や対応の規則性などの関係を見つけ、目的に応じて式やグラフなどを用いて表現や説明する学習活動を充実させていく必要がある。また、百分率の指導にあたっては、百分率で表された割合と小数の関係を理解できるよう、図や表を用いて考えさせるなど、指導方法の工夫改善に努めていく必要がある。
- 図形では、図形の観察や具体的な操作活動をとおして、図形の意味や性質を考える場面の充実を図っていくことが大切である。面積を求める公式については、実感を伴ってその意味が理解できるよう学習活動を工夫していく必要がある。
- 筆算の指導にあたっては、具体物や図に表すことで式と関連付けて考察できるように指導していく必要がある。
- データの活用では、目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、同じところや似ているところなどを見だし、考えたことを他者にわかりやすく説明する場面を設定していく必要がある。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向 (良好○ 課題●)

(1) 家庭生活について

- 「朝食を毎日食べる」では、肯定的回答が約9割を超えており、全国値を上回っている。
- 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」では、肯定的回答が約8割を超えており、全国値をやや上回っている。

(2) 自分自身のことについて

- 「自分には、よいところがあると思う」では、肯定的回答が8割を超えており、全国値をやや上回っている。
- 「将来の夢や目標を持っている」では、肯定的回答は7割で、全国値を下回っている。

(3) 学校生活・学習について

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」では、肯定的回答は9割を超えているものの全国値をやや下回っている。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」では、肯定的回答は9割を超えており、全国値を上回っている。
- 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」では、肯定的回答は6割で、全国値を下回っている。
- 「(平日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」は、5割強が「1時間より少ない」と回答しており、全国値と比べて、勉強時間が少ないことが伺える。
- 「読書は好きですか」では、肯定的回答が8割を超えており、全国値を上回っている。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定的回答は7割を超えているが、全国値をやや下回っている。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」では、肯定的な回答が8割を超えているが、全国値をやや下回っている。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」では、肯定的な回答が9割を超えており、全国値とほぼ同じである。

3 今後の取り組み

☆学 校 目 標	「自ら学び、命と人権を大切にす、すこやかに心豊かな子どもを育成する」
☆学力向上目標	「国語科の授業を通して読む力を育てる」

学校目標の具現化をめざして、未来を担う子どもたちの「生きる力」を育み伸ばしていくために、教職員自らが学びつづけ、魅力ある授業づくりと一人ひとりを大切にする教育活動に取り組んでまいります。

【生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向を踏まえて】

- ・「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の項目は、全国値と比較すると肯定的回答の割合が高い結果となりました。子どもたちが1日を元気で活動するためには朝食を食べることと十分な睡眠が必要です。引き続き、保護者の皆様のご協力ご支援をお願いいたします。
- ・「自分には、よいところがあると思う」「将来の夢や目標を持っている」という項目では、概ね全国値と同様の結果となりました。子どもが自分の良さを見つけ、目標をもって前向きに生きていくためには、さまざまな体験活動をとおして達成感を味わうことや、いろいろな人たちとの出会いや関わりが必要だと考えます。運動会、音楽会などの各種学校行事や、地域や専門家の方を招いた体験的な学習場面の設定を図るなど、今後も教育活動の充実を努めてまいります。
- ・本市一斉の取組である「いじめ予防授業」は4年目を迎え、本校でも継続して行っているところです。自分の身をまもるスキルの定着とともに、未然防止の観点から道徳教育や子ども一人ひとりの良さを引き出す教育活動を充実させ、子どもの豊かな心の涵養に努めてまいります。
- ・教科指導においては、子どもたちの主体的・協働的な学びを具現化すべく、国語科の研究を柱にすえて、教科指導の研究に鋭意取り組んでいるところです。未来を担う子どもたちが、社会で生きていくための力を引き出し伸ばしていくために、魅力ある授業づくりに注力してまいります。

保護者の皆様におかれましては、引き続き、学校教育に対するご協力・ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。